

資料紹介

旅する乱歩〈別府編〉

丹 羽 みさと

巡礼、観光、留学、逃避。
徒歩、鉄道、船舶、航空機。
単独、夫婦、家族、集団。

旅には幾通りの組み合わせがある。

乱歩は昭和四年ごろから執筆に詰ま
つては、妻子を置いて旅に出かけてい
た。それを周囲に知らせるハガキも残
されている。厭人癖があった乱歩らし
い現実逃避といえよう。しかし、自身
が撮影したフィルムや、旅先から持ち
帰ったパンフレットなどから、家族と
連れだつて鎌倉や日光、郷里の鳥羽や
坂手島、奈良や京都、九州などに出か
けていたことがわかった。今回はその
中のひとつ、昭和十二年四月上旬に家
族と旅した別府を取り上げたい。

別府を訪問した近代作家は、高浜虚
子や与謝野鉄幹・晶子夫妻などがある
だが、『別府市誌』別府市教育会、昭
和八年等）、乱歩については志村有弘
『江戸乱歩徹底追跡』（勉誠出版、平成

二十一年）に「一家全員で瀬戸内、屋
島、琴平、道後、別府、厳島を旅行」
とあるくらいで、ほとんど知られてい
ない。

国外からの旅行者も魅了する観光温
泉地であつた別府には、昭和十年にチ
ャップリンやバーナード・ショーが、
昭和十一年十二月にヘレン・ケラーが
訪れている。特に乱歩はヘレン・ケラ
ーについて「触覚だけの」世界に生き
ている「彼女に少なからぬ興味を抱い
てゐた」と述べており（『蔵の中から』
『探偵春秋新年特大号』昭和十二年一
月）、関心の高さがうかがえる。また
三月二十五日から五月十三日まで、別
府公園一帯では国際温泉観光大博覧会
が開催されており、これらの要素が乱
歩を別府へと誘つたのだろう。

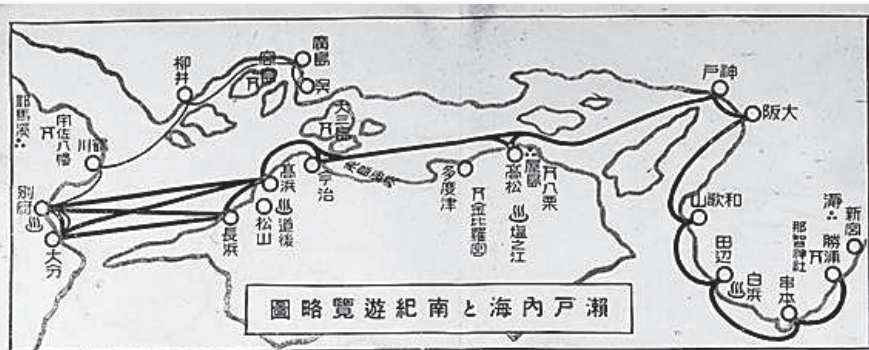
さて、乱歩の『貼雑年譜』昭和十二
年の年表を見ると、「四月母、隆子、
隆太郎トノ四人連ニテ屋島、琴平、道
後、別府、厳島ナド遊覧旅行」とある。
この時期に乱歩が家族旅行を計画した

のは、二月に長編小説「緑衣の鬼」（『講
談倶楽部』昭和十一年一月〜翌二月）
が完結し、三月に長男が府立第五中学
校を卒業したという生活上の区切りが
影響しているように思われる。

より詳しい日程については、乱歩の
撮影フィルムが手がかりとなる。動画
には「善通寺」「道後温泉」「別府温泉」
等と、自筆のタイトルが挿入されてお
り、足取りをたどることが出来る。そ
の内、「瀬戸内海」高浜より別府」と
というフィルムには、「にしき丸」と
記された船舶用浮環が映し出され、乱
歩邸に残された「集印帳」にも、「に
しき丸・大阪商船昭和12.4.23」と乗船
記念スタンプが押されている。これら
によって別府行きが四月三日であつた
と確定できる。

当時の大阪商船パンフレットには、
高浜発別府行きが午前三時五十分発
（午前九時二十分着）と午前九時発（午
後二時二十分着）の二便記されている
が、航行中の様子から、乱歩たちは九
時発の便に乗船したのである。

約五時間の船旅を終え、別府に降り
立つた一行は、白装束で神輿を担ぐ賑
やかな別府の温泉祭に遭遇した。現在
でも、別府温泉八湯まつりとして引き
継がれている催しであり、乱歩と同じ



『春の船旅』大阪商船パンフレット
（昭和十二年三月六日発行）

情景を見ることも可能である。また、宿泊先となった亀の井ホテルも当時と同じ場所である。同ホテルは別府温泉を隆盛へと導いた酒屋熊八創業の宿であり、当時は洋式ホテルとしても人気が高く「KAMENOI HOTEL BEPPU HOTSPRING」というスタンプも用意されていた。乱歩はケーブルカーに乗って遊園地で遊んだ後、砂風呂や部屋食を満喫し、「朱印帳」によると翌四日、自動車を借り切つて耶馬溪の散策に出掛けている。

亀の井ホテルの『日帰り遊覧御案内』には、「頼山陽の筆に謳はれた天下の奇勝山場景の遊覧は、一周百二十哩（マイル）の快適コース、途中宇佐神宮参拝も出来ます。〔所要時間 一周約九時間〕とあり、この日は長時間の遊覧だったようだ。『朱印帳』には「宇佐神宮之宮之印」や「耶馬溪羅漢寺無漏窟」などのスタンプが数多く押されており、フィルムには道中の水車小屋や田園風景、耶馬溪の一目八景や羅漢寺なども収められている。

五日は観光バスを利用し、地獄めぐりに出かけている。当時人気だった車掌嬢を記念に撮影した後、乱歩たちは血の池地獄や海地獄、ワニの養殖が始まった鬼山地獄などを見物し、温泉ま

んじゅうを頼張った。その後は、九州の宝塚と呼ばれた鶴見園や大仏山宝持寺の別府大仏を見物している。鶴見園では毎日十三時から十七時まで女優劇が催されており、乱歩が持ち帰ったプログラムには「シャッポルージュ」や「サムライになる話」といったナンセンス劇や、「別府ばやし」が掲載されている。

六日は、別府と呉を結ぶ第十八宇和島丸に乗船し、宮島へと向かった。パンフレットには別府発は午前八時半、宮島着は午後四時十分とある。残された未投函のハガキにも「六日朝別府を出発宇和島丸ニテ宮島に向ひます。途中どこへも寄りません。多分七日の午後三時頃東京につく見込。」（「天下の名勝 耶馬溪の景観A」ハガキ）と記されており、朝慌ただしく別府を出たようだ。宮島ではステッキを振り回しながら浜辺を歩き、鹿に餌をやる乱歩の姿がフィルムに映っている。宮島ホテルに宿泊し、夕刻までゆったりと人の少ない厳島神社を歩く家族の姿を映して、楽しい別府旅行は「完」となっている。

現在、フェリーの航路は変わり、宮島ホテルも焼失してしまったが、別府には乱歩が訪れた場所が多く残されて

いる。晴れて気軽に旅行ができるようになった暁には、乱歩と同じ別府観光をしてみるのも面白いかもしれない。

【乱歩の旅路】

四月三日 高浜発別府行フェリーにて別府へ。温泉祭見学。亀の井ホテル泊

四月四日 耶馬溪、宇佐神宮参拝
四月五日 別府地獄巡り、鶴見園観光
四月六日 別府発宮島行きフェリーで宮島へ。厳島神社参拝。宮島ホテル泊
四月七日 帰宅

（立教大学）



缶入フィルム（別府・耶馬溪）より

「集印帳」

